

■平瀬露香 豪商。文化を極めた最後の粋人。

ひらせろこう

蚕社の獄・1839= 豪商両替屋千草屋平瀬春温の一人息子に生まれる。母は妾の高井れいの子。赤松千草屋に出されて養育される。幼名羯鼓次郎。

養父が能や雑芸を好んでいた影響で、早くから芸能に関心を抱く。

阿部正弘首座1845= 6歳：

・・・・・・1848= 9歳：

国定忠治磔・1850=11歳：この頃、梶木町千草屋に戻る。羯鼓次郎を泰之助と改める。

万次郎帰国・1852=13歳：諱を泰唯から雅頭に変更。俳号雀一庵桃雅(以後3年)。

ペリー来航・1853=14歳：半元服。山崎・千種を訪ねる。戯号稚桜組露香。

安政大地震・1855=16歳：有賀長隣より小習133箇条皆伝。これ以前より放蕩にふけり、謹慎のため京都・天竜寺へ預けられる。俳号幻夢庵桃雅(以後7年)。

松下村塾・1856=17歳：諱を雅頭から貞英に改める。

蕃書調所・1857=18歳：

安政の大獄・1859=20歳：官休庵一指斎より長緒盆香合、唐物点など伝授を受け、**初めて茶会を開く。**

桜田門外変・1860=21歳：

生麦事件・1862=23歳：俳諧流祖松永貞徳の柿園芦の丸家9世を名乗り、俳号を芦の丸家貞瑛とする。

漢学・和歌・書・能・茶全て超一流の師匠につく一方、書淫といわれるほど読書三昧、

禁門の変・1864=25歳：この頃、平田鏡胤に入門。諱を貞英から春愛(春枝・春兄)に改める。

薩摩藩士密航1865=26歳：泰之助を改め亀之助(亀之輔)と通称する。この頃から桜蔭と号す。

薩長同盟・1866=27歳：父が死去して***家督相続。経営は番頭・手代に任せ、風流韻事に耽りだす。**

大政奉還・1867=28歳：幕府より兵庫商社御用掛に任命。

明治維新・1868=29歳：新政府から太政官会計御用係に任命され、商法会所元締兼務。店方の確執により独楽庵へ籠居。

戊辰戦争終・1869=30歳：独楽庵を出て本邸に戻る。店方大改革。大蔵省通商司頭取並、通商司頭取。今橋西詰山本家の娘と結婚。

特に能への肩入れは並大抵でなく、装束を買い集め、自らも演じて玄人筋を喜ばすほどであった。

慶藩置県・1871=32歳：丸一両替店創業。長瀬藍店創業。

学問のすすめ1872=33歳：**不審庵碌々斎・官休庵一指斎より真台子伝授を受ける。土陽(春温)七回忌追福茶事開催。**

明治6年政変 1873=34歳：

佐賀の乱・1874=35歳：日蓮宗から神道に改宗。仏壇を檀那寺妙福寺に預ける。

初の民間工場1875=36歳：丸一両替店廃止、平保両替店創業。薩摩へ赴き旧藩債について掛け合い解決する。

西南戦争・1877=38歳：初めて上京。明治初年より始めた伊予大洲・新谷の製紙場経営をこの頃まで続けた。

大久保暗殺・1878=39歳：第三十二国立銀行創立、頭取。大阪株式取引所創設(発起人)。再び上京。

沖繩県編入・1879=40歳：**豊国神社建設発起人の一人となり、能舞台を建てる。**

・・・・・・1880=41歳：鹿島組創設。弘教書院設立、冨子家より養嗣三七雄を迎える。**私財を擲ち一切経の活字化を進める。**

明治14年政変1881=42歳：丸一砂糖店創設。3度目の上京。

実業界でも一目置かれたが、財界人らとは話が合わず、孤高を保ち、酒も飲めぬのに、夕方から街に出て徘徊、"蝙蝠大尽"と呼ばれるほどながら、枯れた遊びぶり、

秩父事件・1884=45歳：丸一砂糖店廃業。教導職大講義。平瀬土瀾(水)追善茶会開催。

内閣発足・1885=46歳：豊国廟へ石灯笼寄進(現存)。

帝国大学始・1886=47歳：第1回売立。

初の対等条約1888=49歳：***技芸を大衆化しようと尽力してきた南地演舞場完成し、歌詞自作の「芦辺踊」初演される。お座敷芸よしこの節の大家でもあって権威ある芦の丸家の名跡を継ぎ、人気を独り占めするほどだった。**

帝国議会始・1890=51歳：大阪貯蓄銀行取締役。

大本教・1892=53歳：日本火災保険株式会社社長、のち取締役。***自ら蒐集してきた書画・茶道具・蒔絵・古銭などを収納すべく建てた府立大阪博物場の場長となり、自ら解説して市民たちに喜ばれる。**

郡司千島探検1893=54歳：

日清戦争始・1894=55歳：府立大阪博物場長を辞す。この頃から華郷処士と号す。

白馬会・1896=57歳：大阪手形交換所設立の創設委員。

子規句歌革新1898=59歳：妻が死去。第三十二国立銀行廃止、浪速銀行創設。**豊公300年祭で新作「豊國詣」を奉納。武者小路千家家元預となる。**

田中正造直訴1901=62歳：兼葭堂百年忌発起人、追薦会開催。

教科書疑獄・1902=63歳：愛妾今女死去。垂水の借別荘へ謹慎。一方庵人手に渡る。***公職辞職、財界引退。京都室町の別邸へ隠棲。**

日比谷公園・1903=64歳：第2回売立。

自らの膨大な趣味全てを書き記そうと「華実類聚」に着手するが、未完成に終わる。

日露戦争終・1905=66歳：実子春勝が誕生。

満鉄発足・1906=67歳：第3回売立では、"平瀬相場"といわれる空前の入札値となった。

韓国反日暴動1907=68歳：三七雄(春齡)に家督譲り、

アソビ創刊・1908=69歳：京都別邸で、**没した。**